

第2章
3
施策領域

施策

観光

あるべき姿(概ね30年後)

- 広島県を訪れる国内外の多くの人々に、平和への想い、穏やかな瀬戸内や里山といった自然と暮らしが一体となった情景、古代から戦後の復興までの重層的な歴史・文化、食などの多彩な魅力を通じた、本県でしか得られない価値を提供することで、日本を代表する観光地として評価され、そのことについて県民や事業者が誇りを持っているとともに、観光が県経済を支える産業の一つとなっています。

目指す姿(5年後)

真に価値のある観光プロダクトや多彩で魅力的な観光資源が整っていることで、観光地としての「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」の認知が高まり、広島県を訪れた国内外の多くの人々が、本県でしか得られない価値に触れ、「もう一度、時間をかけて体験したい」、「ほかの魅力にも接してみたい」と思っていただけの観光地となっています。

高齢者や外国人を含めた全ての観光客がストレスなく、快適に過ごせるとともに、地域住民の生活環境が維持・向上しています。また、自然災害発生時等にも観光客の安全が確保され、便利に安心して旅行できる環境が整っています。

国内外の多くの方から高く評価され、選ばれる観光地となっていることについて、県民や観光関連事業者が誇りを持っており、県民一人一人が、より一層「おもてなし」の心を持って観光客に接しています。

高まった魅力や評価から得られる誇りを背景に、県民や幅広い事業者が新たに観光に携わり、イノベーションに挑戦し続けることにより、急激な環境変化にも柔軟に対応しています。

その結果、広島県のブランド価値がより高まり、更なる来訪の増加や評価の高まりにつながるといった好循環が生まれており、基幹産業であるものづくり産業に加え、観光が県経済の成長を支える産業の一つとなっています。

指 標

観光消費額	ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
	4,410億円 (R1)	5,918億円 (R6)	▶8,000億円

目標設定の考え方

観光が県経済の成長を支える産業の一つとなることを目指し、平成28年(4,062億円)から倍増させていくことを目指して設定した。

観光客の満足度	ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
	73.4% (R1)	79.9% (R6)	▶90.0%

目標設定の考え方

リピートによる総観光客数の増加や、観光地での消費意欲の喚起による観光消費額単価の上昇に不可欠な要素であることから、現状値も踏まえて、多くの観光客が満足している状態を目指して設定した。

観光地としての広島県を 誇りに思う住民の割合	ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
	72.6%※1 (R1)	60.6% (R6)	▶90.0%

目標設定の考え方

観光は経済的な面だけではなく、来訪者と地域住民の相互理解や交流の促進などを通じて、県民の潤いのある豊かな生活にも貢献するものであることから、観光地としての広島県を誇りに思う住民の割合を目標とし、観光客の満足度と同様に、目標を設定した。

※1 《参考》せとうち7県の県民満足度調査の広島県の割合

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 人口減少や少子化・高齢化等による国内旅行市場の縮小や、外国人観光客の誘致競争の激化に加え、観光客の訪問先が厳島神社、原爆ドームの二つの世界遺産を中心とした主要観光地に偏り、県内の各地域が有する地域資源のポテンシャルが十分に評価されていないことから、県内各地域で「泊まる・食べる・楽しむ」の更なる充実や受入環境の整備、情報発信・体験機会の提供を通じて周遊・宿泊を促進し、観光振興の経済効果を県域全体に波及させる必要があります。
- 人手不足の顕在化などに加え、物価高騰や人件費の上昇など、観光関連事業者を取り巻く厳しい経営環境に対応できる持続可能な観光産業の確立を図っていく必要があります。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

① ブランド価値の向上につながる魅力づくり

市町等と連携し、国内外の観光客の新たな観光ニーズに対応した観光プロダクトの開発や磨き上げを進めるとともに、県内に点在する観光資源やプロダクトを、テーマやストーリーで結び付けた周遊ルートを形成することなどにより、滞在時間の延長や観光地としてのブランド価値の向上につながる新たな魅力づくりに取り組みます。

② 誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備

外国人観光客を含む全ての観光客が、地域住民の生活環境との調和を図り、その維持・向上にもつながるよう配慮しながら、快適かつ安全・安心に周遊観光を楽しむことができ、何度も訪れていただけるよう、受入環境の整備等に取り組むとともに、高まった魅力や評価から得られる誇りを背景に、観光関連事業者などのおもてなし意識の更なる向上と実践に取り組めます。

③ 広島ファンの増加

広島ならではの魅力や観光情報を的確に発信することにより、国内外からより多くの観光客が広島を訪れ、広島を高く評価し、SNS等で自ら広島の魅力を発信する広島ファンの増加に取り組むことで、来訪者の更なる増加やブランド価値の向上といった好循環につなげます。

④ 3つの柱(「ブランド価値の向上につながる魅力づくり」「誰もが快適かつ安心して楽しめる受入環境整備」「広島ファンの増加」)を支える土台づくり

新たな観光人材の育成・確保やデジタル技術を活用した生産性向上、観光関連事業者におけるサービスの高付加価値化の推進等に取り組むことで、自立的・継続的な観光産業の確立を図っていきます。

⑤ 「おいしい! 広島」の推進

ひろしまは美味しさの宝庫であることの認知・共感を高め、観光消費額の増加や農林水産物の消費拡大につなげられるよう、多様な主体と連携し、ブランドイメージを向上させる新たな強みの創出、多彩な食資産の磨き上げなどを行うとともに、食の魅力発信に取り組めます。

重点項目に関する主な取組

- 観光業界の人手不足等を背景に、新たな観光人材を育成・確保するための取組やデジタル技術等を活用した業務効率化など、観光産業を支える土台づくりを進めます。
- 県民及び県外からの来訪者にひろしまの多彩な食資産が十分に評価されていないことから、ひろしまは美味しさの宝庫であることの認知・共感を高める取組を進めます。



あるべき姿(概ね30年後)

- 広島東洋カープや広島交響楽団といった戦後復興の象徴として県民と支え合い、歴史をとともに築いてきたプロフェッショナル団体等の取組や、駅伝や広島神楽など、地域が大切に育んできた、全国にも誇れるアマチュア団体等の取組によって積み重ねられてきた「広島のスポーツ・文化の伝統」に、時代が求める新たなスポーツや文化芸術の要素を取り込みながら、更に磨いていくことで、地域への愛着や誇りの醸成が進み、地域経済の活性化にも結びついています。
- 県民一人一人が、それぞれの価値観やライフスタイルに応じてスポーツや文化芸術を楽しむことで、健康や心の豊かさを実感し、彩りや潤いのある生活を送っています。

目指す姿(5年後)

地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、地域への愛着や誇りの醸成につながっているとともに、新たな賑わいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。

多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。

県民それぞれの思いや環境に合わせて気軽にスポーツを「する」ことに加え、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」など、県民誰もが様々な形でスポーツを楽しむことで、健康と豊かさを実感しています。

パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。

自らの資質や志向に応じた挑戦ができる良質なスポーツ実施環境により、県民一人一人のスポーツを通じた夢や希望への挑戦につながっています。

県民一人一人が、それぞれの価値観やライフスタイルに応じて文化芸術を楽しみ、生活に安らぎや幸せなどの豊かさをもたらすという実感が広がっています。

県内の豊かな自然や歴史、風土に培われてきた特色ある文化芸術や、地域で新たに生まれた多彩な文化芸術の魅力が、広く県民に親しまれ、地域への愛着や誇りの醸成につながっています。

用語解説

アーバンスポーツ…街中の遊びの中から生まれた都市型スポーツ。種目としては、BMXフリースタイルやスケートボード、パルクール、ローラフリースタイル、プレイキンなどがある。
eスポーツ…Electronic Sports の略。コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

指標

スポーツを楽しめることを
誇りに思う県民の割合

ビジョン策定時点
(R2)の現状値

52.4%
(R1)

現状値

61.9%
(R7)

5年後の目標値
(R12)

65.0%

目標設定の考え方

スポーツアクティベーションひろしまが中心となって、スポーツの多彩な楽しみ方を提供していくことで、10年間で10ポイント以上の増加を目指して設定した。

週に1日以上スポーツ実施率

ビジョン策定時点
(R2)の現状値

県:41.8%
(国:53.6%)
(R1)

現状値

50.3%
(R7)

5年後の目標値
(R12)

65.0%

目標設定の考え方

国の第2期スポーツ基本計画において「成人の週に1日以上スポーツ実施率」を65%程度としていることに準じて目標を設定した。

文化芸術に親しみ、生活に
安らぎや幸せなどの豊かさを
実感している県民の割合

ビジョン策定時点
(R2)の現状値

—

現状値

58.5%
(R6)

5年後の目標値
(R12)

63.5%

目標設定の考え方

文化芸術に親しみ、生活に安らぎや幸せなどの豊かさを実感している県民をR32までに80%以上に増加させることを目指し、平均増加率1%を最大限達成するものとして設定した。

広島や地域に愛着や誇りを
感じる文化芸術があると
感じる県民の割合

ビジョン策定時点
(R2)の現状値

—

現状値

49.6%
(R6)

5年後の目標値
(R12)

53.4%

目標設定の考え方

県内の豊かな自然や歴史、風土に培われてきた特色ある文化芸術や、地域で新たに生まれた多彩な文化芸術の魅力が、広く県民に親しまれ、地域への愛着や誇りの醸成につながるよう、国の類似調査において最も割合が高い地域の水準を参考に設定した。

用語解説

スポーツアクティベーションひろしま(SAH)…スポーツを通じた魅力ある地域づくりに向け、県・市町・スポーツ団体等、様々な主体が一体となって取組を進めていくための組織(広島版スポーツコミッション)。

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 各地域に根付いたスポーツや、幅広いスポーツが体験できる豊かな自然環境といった多彩なスポーツ資源を、新たな賑わいの創出などの地域活性化につなげていく必要があります。
- 県内には、野球やサッカーに加え、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール等多くのトップスポーツチームが存在し、国内外で活躍している様々なジャンルのトップチームの観戦ができるものの、一部のスポーツチーム以外は県民に広く浸透していないため、情報発信や選手との交流機会の創出など、より多くのスポーツを観戦できる環境の充実に取り組む必要があります。
- 本県の「成人のスポーツ実施率」は全国平均を概ね下回って推移しているほか、全国と比べて平均寿命は長いものの健康寿命が短いといった状況もあることから、県民誰もが生涯にわたってスポーツに関わり、楽しむ環境づくりに取り組む必要があります。
- パラスポーツに触れる場や機会が少ないため、「パラスポーツに関心を持っている県民の割合」は横ばいで推移しており、パラスポーツについての県民の認知や参画を促していく必要があります。
- ジュニア世代における競技人口の減少によるスポーツ活動の制限や指導者不足など、競技レベルの低下が懸念されています。こうした中にあってもスポーツ競技力を向上させていくため、競技団体等と連携し、自らの資質や志向に応じた挑戦を後押しする良質なスポーツ実施環境やアスリートの育成環境の整備に取り組む必要があります。
- 県民の価値観やライフスタイルが多様化する中で、生活に安らぎや幸せなどの豊かさをもたらす文化芸術の本質的な価値や直接体験の意義が再認識されています。一方で、文化芸術により生活に豊かさをもたらされているという実感が十分に広がっていないため、県民が実感できるよう取り組む必要があります。
- 県内の豊かな自然や歴史、風土に培われてきた特色ある文化芸術や、地域で新たに生まれた多彩な文化芸術の魅力が、身近な存在として県民に十分に親しまれていないため、県民がその魅力を感じられるよう取り組む必要があります。

用語解説

トップス広島…広島に拠点を置く12のトップスポーツチームがネットワークをつくり、子供たちにスポーツの楽しさを伝える活動を中心に、広島
のスポーツ全体を盛り上げていくために様々な活動をしているNPO法人。
アスリート育成パスウェイ…子どもがスポーツに触れてからトップアスリートに至るまでの過程。

目指す姿の実現に向けた取組の方向

① スポーツを活用した地域活性化

県内各地域が取り組む地域の特色あるスポーツ資源を活用した地域活性化に向け、戦略立案や関係団体等とのネットワークの構築、関連情報の発信等を支援します。

「トップス広島」や企業、大学等と連携し、県内トップスポーツチームやアスリートの情報発信や県民との交流機会の創出など、トップスポーツの観戦への誘客、県民の満足度の向上等に取り組めます。

② 誰もがスポーツに親しむ環境の充実

県民がスポーツに身近に接する機会を増やすため、スポーツや運動の実施に加え、観戦やボランティア参加など、多様な関わり方を促す環境を整備するとともに、スポーツ施設の利便性向上や利用者の安全確保に取り組めます。

スポーツや運動の実施については、県民の世代やライフステージごとのニーズに応じた運動習慣化のきっかけづくりに取り組めます。

また、障害の有無等を問わず誰もが参画できるパラスポーツについて、県パラスポーツ協会や市町等と連携し、普及啓発や、パラスポーツに接する場・機会の充実、競技力の向上に取り組めます。

③ スポーツ競技力の向上

競技団体等と連携し、子供の能力や意欲に応じ、挑戦したい競技や好きなスポーツに出会える機会の創出から、中学校期・高校期までの一貫した育成システムを提供します。また、アスリート育成パスウェイの整備や指導者確保、スポーツ医・科学のエビデンスに基づいた育成・強化等に取り組めます。

④ 文化芸術を楽しめる機会の充実と魅力発信

若者やファミリー層など、幅広い世代のニーズに応じた身近な文化芸術の魅力発信に取り組むとともに、美術館や縮景園等での鑑賞機会の充実や文化芸術活動の発表機会の提供、博物館や資料館等での歴史文化に触れる機会の提供などを通じて、市町や民間等とも連携しながら県民一人一人が、それぞれの価値観やライフスタイルに合った文化芸術を楽しめる機会の充実を図ります。

また、広島交響楽団や広島神楽などの広島の多彩な文化資源の魅力を県内外に発信する取組の支援や、文化財などの地域の歴史文化を親しむことができる環境整備に取り組めます。

重点項目に関する主な取組

- 県民の誰もがスポーツを楽しむことで健康と豊かさを実感し、スポーツの力によって本県及び地域社会への愛着や誇りが醸成され、スポーツを通じて夢や希望に挑戦できる社会の実現に取り組めます。
- 若者やファミリー層など、幅広い世代のニーズに応じた身近な文化芸術の魅力発信に取り組むとともに、美術館や縮景園等での鑑賞機会の充実や文化芸術活動の発表機会の提供、博物館や資料館等での歴史文化に触れる機会の提供などを通じて、市町や民間等とも連携しながら県民一人一人が、それぞれの価値観やライフスタイルに合った文化芸術を楽しめる機会の充実を進めます。

あるべき姿(概ね30年後)

- 世界で最初の被爆地広島が、平和に関する資源が集まり平和のための活動が効果的に生み出される国際平和の拠点としての役割を果たし、核兵器のない平和な世界の実現に具体的に貢献していくことで、世界中の全ての人たちが、核兵器による脅威から解放され、安心して暮らしています。

目指す姿(5年後)

- 核兵器問題が人類及び地球全体の持続可能性に対する脅威であるという認識のもと、核兵器の存在を前提としない、新たな安全保障政策が策定されています。また、核兵器廃絶に向けた多国間枠組みに、核兵器国を含む全ての国が合意・参加し、核兵器廃絶の実現に向けた具体的な道筋が明らかになっています。
- 核兵器廃絶や平和構築に向けた取組を世界で実践できるよう広島で平和を学んだ将来を担う若い世代が、様々な形で平和を希求する活動に持続的に関わることで、世界中に共感の輪が広がり、国際社会に影響を与え、安心して暮らせる平和な世界の実現に貢献しています。
- 賛同者の拡大に伴い、平和に関する人材、知識・情報、資金などの資源が、国内外から、広島へ持続的に集積され、広島が、平和に関する諸課題を解決に導く国際平和拠点として世界中から認知され、平和への期待が集う場所としての役割を發揮しています。



指標

核兵器廃絶に向けた
国際的な合意形成

目標設定の考え方

核兵器廃絶のためには、核兵器国を含む全ての国連加盟国の参加が不可欠であり、そのためには、各国の合意形成を図る必要があることから、目標として設定した。

ビジョン策定時点 (R2)の現状値	現状値	5年後の目標値 (R12)
合意形成方策の 検討 (R2)	合意形成に向けた 働きかけを実施 (R6)	多国間枠組みに 核兵器国を含む 全ての国が参加

目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 安全保障環境が厳しさを増す中、核兵器に対する依存の高まりや国家間の分断が進行しており、核抑止に頼らない安全保障の在り方に関して議論することが一層困難になっています。このため、こうした中においても、引き続き、新たな安全保障政策の策定に向けた研究活動を継続・発展させていく必要があります。
- 令和6年の国連未来サミットにおいて、核兵器問題が地球規模で解決すべき課題の1つとして位置づけられたほか、核兵器問題と社会的諸課題とのつながりに着目して活動する若い世代によるグループも出現してきています。こうした中で、多国間枠組みである国連の次期開発目標に、核兵器問題が位置づけられるよう、各国政府への働きかけや多様な主体との連携を強化していく必要があります。
- 被爆の実相を伝えてきた被爆者の高齢化が進んでいる中においても、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞による核のタブーへの関心の高まりを追い風に、核兵器廃絶や平和構築を担う人材の育成に取り組む必要があります。
- 核兵器廃絶に向けた国際的な合意形成に向けた取組を持続可能なものにしていくためには、世界の多様な主体からの賛同を集めるとともに、平和に関する人材、知識・情報、資金などが集積する仕組みを整備する必要があります。



目指す姿の実現に向けた取組の方向

① 核兵器廃絶に向けた新たな政策づくりと多国間枠組みの形成

核兵器廃絶に向けて、ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)や英国王立防衛安全保障研究所(RUSI)などの世界的な平和研究機関と連携し、核抑止に替わる新たな安全保障政策づくりを進め、その政策について各国の賛同を得ることにより、核兵器のない平和な世界の実現に向けた多国間枠組みの形成を図ります。

② 多国間枠組みの形成を目指した国際社会への働きかけと賛同者の拡大

国、国際機関、市民社会など多様な主体との協働や平和の担い手となる国際社会で活躍できる次世代人材の育成により、平和の取組への賛同者を拡大していくことで、多国間枠組みの形成に向けた理解促進と、核兵器廃絶に向けた国際的な機運醸成につなげていきます。

③ 広島が有する経験や資源を生かした次世代平和人材の育成

原子爆弾による徹底した破壊とその破壊からの復興を成し遂げた経験や平和と希望のシンボル性を生かして、ユニタール(国連訓練調査研究所)広島事務所、JICA(国際協力機構)中国センター、ひろしま国際センターなどの国際的な人材育成機関や、広島大学などの県内教育機関との連携により、国際社会において核兵器廃絶や平和構築に向けた取組を将来的に担う若い世代の人材育成を加速させます。

④ 持続可能な平和推進メカニズムの構築

経済界が企業活動を通じて平和へ関与していく機会の創出や、様々な主体の参画を促す情報発信機能の充実など、世界から人材、知識・情報、資金などの資源を集積した持続可能な平和推進メカニズムを構築し、国際的な平和研究機関をはじめ、各国政府、自治体、経済界やNGOなど、様々な主体と連携・協働することで、新たな安全保障の政策づくりや賛同者の拡大に取り組み、核兵器廃絶に向けた世界的な行動を推進します。

また、広島が国際平和拠点として期待される役割を発揮していくため、一般社団法人へいわ創造機構ひろしま(HOPe)とも連携して、平和に関する資源の集積機能や平和に関する諸課題を解決に導くための研究機能等を備えたセンター機能の確立に向けて、取り組みます。

重点項目に関する主な取組

- 核兵器廃絶と恒久平和に向けて、国際社会において核兵器廃絶や平和構築に向けた取組を将来的に担う若者の人材育成を進めます。

